

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 05 03	中期総合計画主要施策番号		2-03	担当課	部・課	農政部農地整備課		
事業名		畑地帯総合土地改良事業(公共【生産基盤】)					内線	3154		
							E-mail	n o c h i @ p r e f . n a g a n o . j p		
事業の概要等	事業の目的	農業経営の体質強化や持続的発展を図るため、野菜や果樹等の栽培に必要な不可欠な畑地かんがい施設を中心とした農業生産基盤を総合的に整備し、畑地帯における農業生産性の向上及び合理化を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・かんがい施設の破損・断水等により、恒常的な用水の供給不足が生じている。 ・不整形な区画や未整備の農道等、農業生産基盤の立ち遅れにより営農に支障が生じている。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・従前事業で整備した石綿セメント管等について築造から30～40年が経過し、施設の老朽化が進行している。 ・近年の作付け体系の変化等により、農業生産基盤の整備水準についての向上要望がある。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・老朽化したかんがい施設について、計画的な施設の更新を実施する。 ・作付品目の多様化や地域のニーズに対応可能な農業生産基盤の整備を実施する。								
		事業内容	地域の営農に必要な畑地かんがい施設、排水路、区画整理、農道等の整備を行う。 (補助率:【国】50%、【県】25%、【市町村等】25%)							
		実施期間	S 4 5 ~		根拠法令等	土地改良法、畑地帯総合整備事業実施要綱				
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
畑地かんがい施設の計画的な更新・整備により農作物の安定生産と品質確保を図る。 「第6次長野県土地改良長期計画」における期間内整備目標(畑地かんがい施設の整備・更新面積870ha(H20～H24))		平成20年度整備目標は、265haとする。 (目標に対する進捗 30%)			畑地かんがい施設の整備・更新面積は291haであった。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	815,100	682,158	388,500	国庫・県単	公共		
	決 算 額 (B)		千円	695,300	744,978		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	4,550	3,705	4,125	歳出節別内訳等	予算現額(最終予算+繰越額等) 894,158		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	7.50	6.60	3.80	(単位: 千円)	1地区当り平均事業期間 9年		
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	695,300	744,978	388,500				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	実施地区数		箇所	6	5	4	20年度完了 1地区			
	畑地かんがい施設の更新・整備面積		ha	157	291	120				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・果樹、野菜地域の品質向上、生産安定のために必要不可欠な事業であり、事業のニーズは継続している。 ・土地改良法や実施要綱等の制度に基づき、今後も県が主体となって実施していく必要がある。 ・事業実施にあたりコスト縮減や計画の見直しを行い、効率的な事業執行を図っている。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・昭和40年～50年にかけて県営事業等で実施した管路やポンプ施設等について、計画的な整備を進める。 ・今後も果樹、野菜等の品質向上や安定供給を図るため、地域の要望を反映しながら事業を進めていく必要がある。							